よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信

十四号
2008.8

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：２００８年８月１日
〒７８１－５３１０
高知県香南市赤岡町５３８
Tel.Fax ０８８７－５７－７１１７
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

絵金シリーズ 百話

第十三話 運命のいたずら

INFORMATION

天守物語

泉鏡花／作

――封建時代、播州姫路の白鷺城天守閣には、伝説の獅子頭とその不思議な力で生きる天守夫人・富姫たちが住んでいた。100年もの間、誰も近寄ったことのないこの天守に一人の若侍が上がってくる…

夜の高知城、椿原座、そして平成によみがえった芝居小屋弁天座を舞台に繰り広げられる、泉鏡花の夢幻の世界。昨年好評を博した「高知演劇ネットワーク演会」による天守物語が再び、赤岡にやってきます。地元演劇人たちによる渾身の舞台、是非ご来場ください。

高知城公演 日時 10/29（水）～ 11/2（日）
開演予定 19：30　高知城二ノ丸特設野外シアターにて

香南市赤岡町 弁天座公演 日時 11/15（土）
開演予定 19：00

椿原座公演 日時 12/7（日）～ 11/2（日）
開演予定 14：00

入場料　一般前売り　2000円
　　一般当日　2500円
　　高校生以下　1000円

チケット販売　9月以降予定
発売場所予定　高知県立美術館ミュージアムショップ、弁天座
高新プレイガイド、TUTAYAほか

主催：「天守物語」プロジェクト実行委員会
共催：おびさんマルシェ実行委員会・協同組合帯屋町筋・絵金蔵・弁天座
企画制作：Theatre Lab. こうちMe

お問い合わせ
「天守物語」プロジェクト実行委員会　事務局
担当：岡村実記　tenshu@kochi-engeki.net
TEL　090-7625-9674　http://www.kochi-engeki.net/tenshu

稀代のジャズハーモニカプレーヤー ‘森澤郁夫’来る！

蔵でJAZZ Vol.2 開催決定！

カウンターバーあります

日時：11/23（日・祝）
午後７時開演（６時半開場）
場所：絵金蔵

＊チケット発売　９月予定。絵金蔵にて前売りのみ販売。詳細は決まり次第絵金蔵ＨＰにてお知らせ致します。

編集後記

絵金蔵にとっては一大イベントの絵金祭りがやっと終わりました。

今年のお祭りからは、絵金の屏風絵をできるだけ良い状態で保たせるため、またできるだけ長く野外に出す風習を伝えるため、煙が出る屋台を絵から遠ざける取り組みを行いはじめました。今までの雰囲気を壊さないようにしながら、こういった取り組みを続けたいと思っています。

絵金祭りが終わってほっと一息…と思いきや、秋は上記のようなお芝居やコンサートなどのイベントが目白押し！絵金のほかにも楽しめる企画も行っていきますので、お楽しみに…。最新情報はホームページやブログにアップしていますので、こちらもぜひチェックをお願いします！

（蔵長・横田　恵）

絵金祭りはお盆の時期に当たり、赤岡だけでなく県下各地の神社や大師堂で絵金とその弟子たちによる芝居絵屏風が飾られます。現在も行われているのは安芸市川北や南国市片山、高知市春野、同市朝倉、同市鴨部、須崎市など、山間部というよりは海辺に近い町に祭礼文化と共に作品が伝えられています。

二十四枚もの屏風絵を掲げる迫力ある朝倉神社の祭り、田園のなか子供たちの描いた愛らしい絵馬提灯と共に屏風絵を飾る春野愛宕神社の郷愁を誘う祭り、どれも魅力的です。行ってみたい方は絵金蔵にお問い合わせ下さいませ。

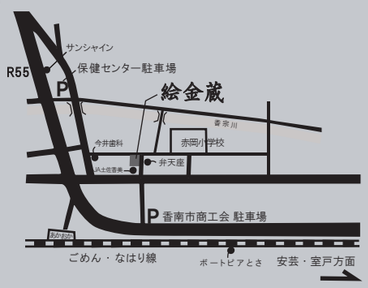
（副蔵長・福原僚子）

〔絵金蔵〕

開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時半まで）

観覧料
大人500円、高校生300円
小・中学生150円
（15名以上の団体は各50円引き）

休館日
毎週月曜日
（月曜が祝日の場合は火曜）
12月29日～1月3日



絵金蔵の三つの使命

幕末土佐の芝居絵師・金蔵（通称・絵金）。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

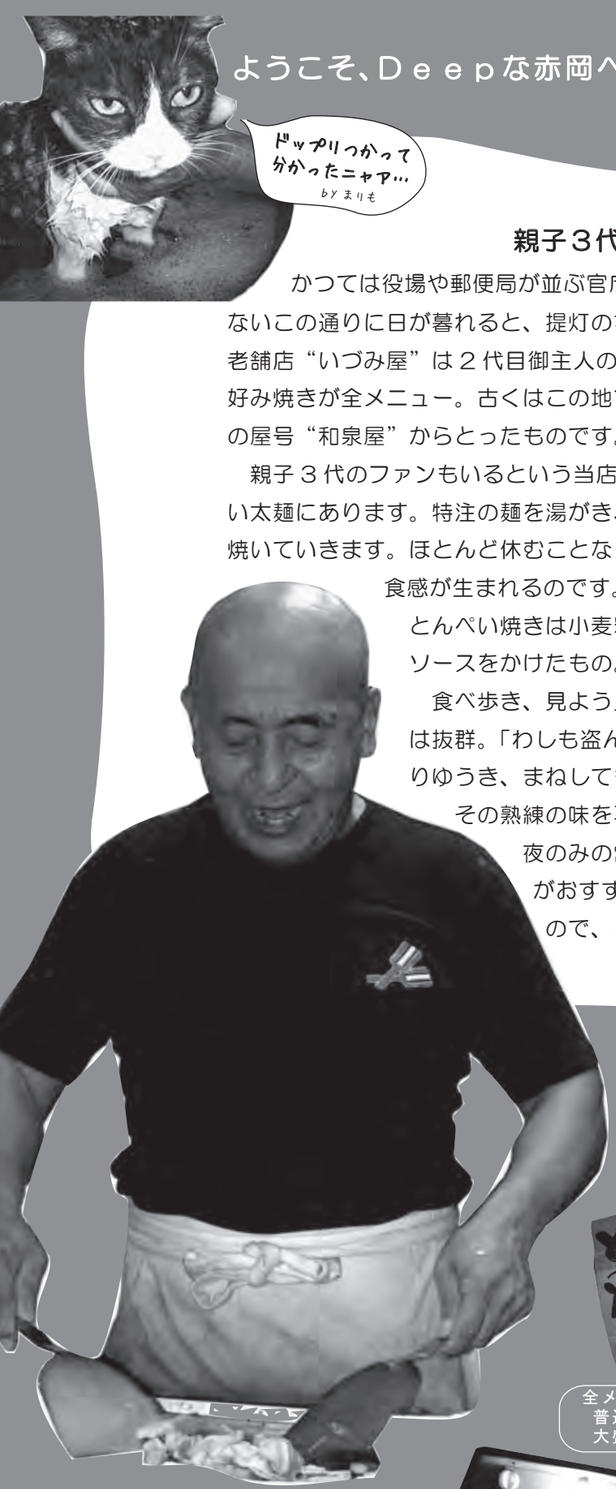
年に一度：絵金の文化を守るため
伝承：次の世代へ伝えるため
縁結び：地域を超えて世代を超えて

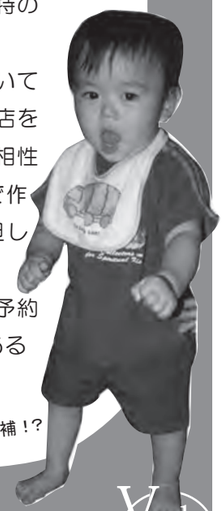
ようこそ、Ｄｅｅｐな赤岡へ。赤岡っ子に愛されるおいしいモノの物語。

親子３代、愛され続ける味

かつては役場や郵便局が並ぶ官庁街だった赤岡町弁天通り。今では人通りの少ないこの通りに日が暮れると、提灯のちいさな明かりがともります。知る人ぞ知る、老舗店“いづみ屋”は２代目御主人の焼く独特の焼きそばと‘とんぺい’焼き、お好み焼きが全メニュー。古くはこの地で紺屋を営んでいた家で、「いづみ屋」は当時の屋号“和泉屋”からとったものです。

親子３代のファンもいるという当店の焼きそば、その特徴は歯ごたえのある平たい太麺にあります。特注の麺を湯がき、約 40 分もの時間をかけて鉄板でじっくりと焼いていきます。ほとんど休むことなくヘラを使い、まんべんなく焼くことで独特の食感が生まれるのです。





とんぺい焼きは小麦粉ベースの皮に分厚い豚肉を乗せ、卵で巻いてソースをかけたもの。今のご主人が大阪にいたころ、いろんな店を食べ歩き、見よう見まねで作りだした味だそう。ビールとの相性は抜群。「わしも盗んできたがやき、企業秘密はなし。目の前で作りゆうき、まねしてもろうても全然かまん。」と言うご主人。但しその熟練の味を再現できる人はなかなかいないようです。

夜のみの営業、焼きそばは時間がかかるので、電話予約がおすすめ。お昼でも電話頂いたら作れる場合があるので、ご連絡を。

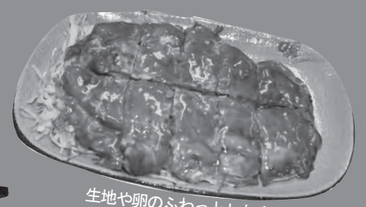
４代目
有力候補！？

Vol. 2

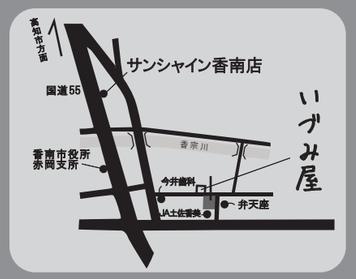
思い出の味
とんぺい焼きそば
いづみ屋

キャベツ、豚、イカなど麺に負けないくらい具材たっぷり。

全メニュー共通
普通 600 円
大盛 800 円



生地や卵のふわっとした食感を味わうには、焼きたてを。



問い合わせ先・いづみ屋
〒781-5310 高知県香南市赤岡町 525-1
TEL0887-54-2538・090-9555-0352
営業時間／午後６時～ 11 時頃
休み／月曜　Ｐ有（店舗左隣）

絵金百話

第十三話　運命のいたずら

伊達競阿国戯場（だてくらべおくにかぶき）　累（かさね）

〈 概　要 〉

初世桜田治助（さくらだじすけ）・笠縫専助（かさぬいせんすけ）合作による『伊達競阿国劇場』は安永7年（1778）7月、江戸・中村座にて時代物歌舞伎として初演されました。本作は伊達騒動＊1に累（かさね）の伝説＊2をからめた脚色で、数多くの累物（かさねもの）のなかでには怪談の要素が強いものもありますが、本作では累の哀れさに重きを置いている点に特色があります。近年では歌舞伎、人形浄瑠璃共に累の筋が独立し、主に『薫樹累物語（めいぼくかさねものがたり）』の外題で上演されています。

ここでは安永８年（1779）3月、江戸・肥前座で上演された達田弁二・吉田鬼眼・烏亭焉馬（うていえんば）合作による人形浄瑠璃の台帳（『近松半二　江戸作者浄瑠璃集』新日本古典文学大系94　岩波書店　1996年9月）より本作のストーリーをご紹介致します。

足利義満の時代、足利家横領をねらう仁木弾正（にきだんじょう）らは義満の弟頼兼（よりかね）（第3代仙台藩主伊達綱宗（つなむね）がモデル）に放蕩（ほうとう）をすすめ、幼君鶴喜代（つるきよ）の毒害を図りますが、乳人政岡（まさおか）や荒獅子男之助（あらじしおとこのすけ）ら忠臣のはたらきによって阻止されます。一方、足利家のお抱え力士絹川谷蔵（きぬがわたにぞう）は、主人頼兼の放蕩を止めるためその寵愛の遊女高尾（たかお）を殺し、たまたま逃げ込んだ高尾の兄豆腐屋三婦（さぶ）の家で末の妹、累（かさね）と夫婦になり、故郷羽生村（はにゅう）で与右衛門（よえもん）と改名して所帯を持ちます。しかし、姉の祟（たた）りで美しい顔が醜く変わった累は、与右衛門が頼兼の許嫁歌方姫（いいなずけうたかたひめ）を救おうとする場面を見て誤解し、乗り移った姉の怨霊がさらに累を逆上させ、嫉妬に狂う余り二人を殺そうとしたため、ついに夫の手によって殺されてしまうのでした。

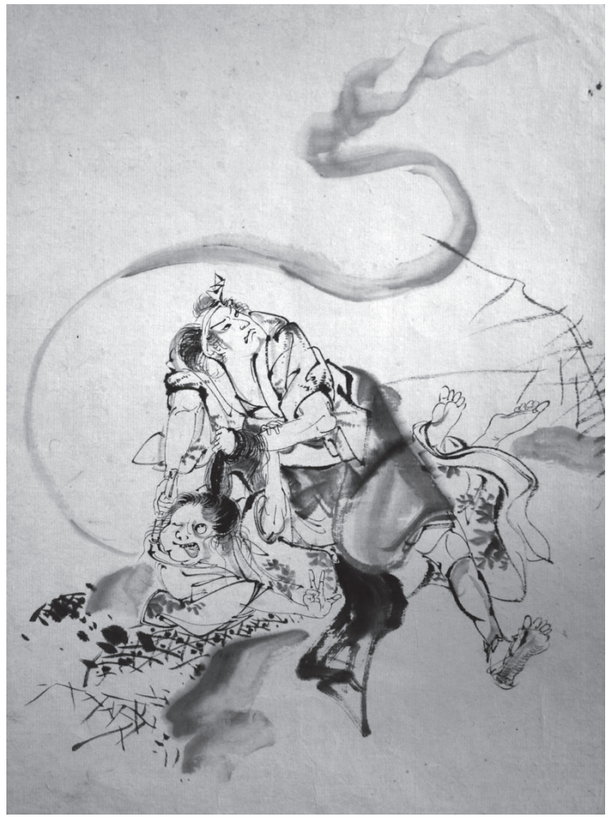
赤岡町本町二区に伝わる本作を描いた屏風絵は、絵金の作品のなかでもひときわおどろおどろしく、鮮烈な作品です。飛び出した眼で歌方姫をにらみつけながら着物に喰いつき、頭からは怨霊の炎を立ち上らせ、さらに髪の毛までがねっとりと闇夜を這い襲いかかるさまはぞっとするほどの迫力に満ちています。現在では絵の具の剥落が進み確認しづらくなっていますが、その眼には薄く蝋がひかれ、祭の夜には蝋燭の明かりで大きな眼がゆらゆらとうごめきました。哀れにも恐ろしい、累の世界をどうぞご堪能あれ！

＊1 伊達騒動　第３代仙台藩主伊達綱宗が万治３年（1660）幕府より隠居を命じられたあと、その子亀千代が２歳で家督を継ぐが、その後見人で政宗の末子宗勝・原田甲斐らが実権を握り、保守派の伊達安芸らと対立、老中の裁きによって宗勝らが処罰された事件。本作のほか『伽羅先代萩』など伊達騒動物として数多くの作品に描かれる。

＊2 累の伝説　下総国羽生村（現、茨城県水海道市）・法蔵寺に伝わる伝説で、同寺の開帳や『死霊解脱物語』の出版で各地に流布した。承応～寛文年間（1652-73）、この地で嫉妬に狂った醜婦の累が夫与右衛門に殺され、怨念は一族に祟るが、回国中の祐天上人の祈念で解脱するという因縁譚。〈参考文献〉『ふるさとの伝説３　幽霊・怨霊』ぎょうせい　1989 年 10 月

絵金の素描（デッサン）

～伊達競阿国戯場と累～



「色彩間苅豆（いろもようちょっとかりまめ）」の与右衛門（よえもん）と累（かさね）
紙本墨画／香我美町・吉川登志之氏所蔵

「色彩間苅豆」は浄瑠璃所作事（じょうるりしょさごと）（舞踊劇）として1823年、鶴屋南北作「法懸松成田利剣（けさかけまつなりたのけん）」二番目序幕にて初演されました。「伊達競阿国戯場」で累を愛しぬいた与右衛門と違い、本作の与右衛門は累の母と不義密通したうえその夫を惨殺し、累まで手にかけてしまう冷酷なキャラクター。ここではまさに鎌で累の首を掻き切ろうとする瞬間を描いていますが、戯化された累の顔は陰惨さを感じさせません。

「伊達競阿国戯場」の金五郎と歌方姫
紙本墨画／香我美町・吉川登志之氏所蔵

‘お化け屋敷’総指揮
青年部副部長・田中裕也さん

平成20年
須留田八幡宮宵宮祭
7/14・15
絵金祭り点描
7/19・20

Ⓐ～Ⓓ 絵金祭りで行われた地元の商工会青年部のメンバーによるお化け屋敷のスナップ。両日とも子供たちを中心に長蛇の列ができ、スリルいっぱい、３次元の絵金の世界を楽しんでいただきました。
（写真提供：香南市商工会）

Ⓔ 夕暮れどきの宵闇が迫るころ、所蔵家たちの手によって絵が並びはじめます。赤岡町本町二区付近。

Ⓕ 宵宮の夜の赤岡町本町一区付近。赤岡の屏風絵は絵金蔵に寄託されていますが、祭の際は町内４地区の所蔵家たちのもとに返され、それぞれの家の前に飾られます。

Ⓖ 絵金蔵第１展示室、「闇と絵金」で宵宮の両日、語り部講座を行いました。たくさんの方が熱心に聴いて下さいました。

Ⓗ 絵金祭の日の弁天座、絵金歌舞伎伝承会の練習風景。地域の子供たちも一緒に今年は「菅原伝授手習鑑」が上演されました。

絵金を、読む。

伊達競阿国戯場　累

二曲一隻屏風/紙本著色/176.0×162.0cm
赤岡町本町二区所蔵

■ ただ、忠義のために

お尋ね者となった歌方姫の身代わりに、累の首を持って代官所に急ぐ与右衛門。高尾の怨霊が去り本来の美しい顔に戻った累の首を泣く泣く掻き切り、ひたすら主人へ忠義を尽くすのでした。

■ 金揃へて持ッておじや。

たまたま出会った歌方姫を捕え、与右衛門に百両で売り、さらに与右衛門の過去を敵方に伝え、褒美の金を二重にせしめようとする悪党、 金五郎。

■ 何のあいそをつかそふぞ。

「**不自由な所帯を苦にもせず誠をつくしてたもる心ン底。心の器量は昔の百倍。何のあいそをつかそふぞ。コリヤとつくり気をしづめて、聞いてくれ、女房共**」愛する妻に切々と説く与右衛門。

■ 其様な恨を受ける者じやない！

全く身に覚えのない嫉妬をされ、累に引きずり回される歌方姫。累の異様な有様に、ただおろおろと震え泣くばかり…。

■ 喰付ィても此恨晴ラさいで置ふか

「**よふもはるばる此下総迄男をねとりにおじゃったの**」と歌方姫を睨みつける累。自身が醜く変わり果てた悲しみと姫への嫉妬が、姉の怨霊によって、狂気に変わります。頭から立ち上る火の玉はその累に乗り移った怨霊。

物語る小道具ー1

本作の浄瑠璃初演台帳には登場しない卒塔婆。しかし1823年初演の「色彩間刈豆」では過去に累の父を殺した与右衛門の悪事を象徴する重要なアイテムとして登場します。絵金は様々な累の物語の中から印象的な小道具を配し、見る者のイメージ拡大をねらったのではないでしょうか…

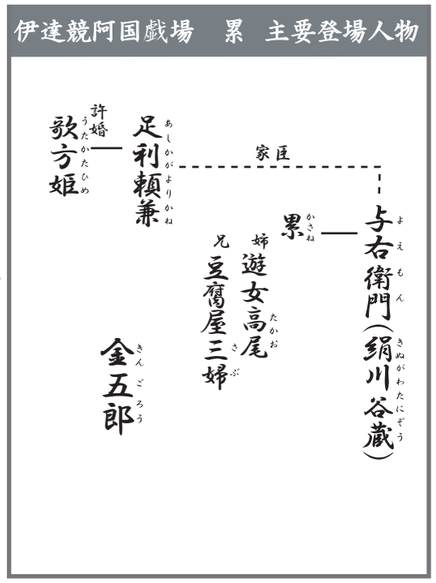
物語る小道具ー2

自分の醜さを知り絹川に身を投げて死のうと決意した累はもし仕損じては身の恥と持って出た鎌で歌方姫に切りつけ、結局はその鎌で夫によって殺されてしまうのでした。

物語る小道具ー3

当場面前段に登場する刈り豆駕籠。絹川に身を投げて死のうと決意した累が、川に沈むための錘に使おうとして持ち出した物。

伊達競阿国戯場　累　主要登場人物



― あらすじ ―

足利家お抱えの相撲取り絹川谷蔵は主人の放蕩を止めるため、その愛人、遊女高尾を殺す。その後谷蔵はたまたま逃げ込んだ高尾の兄豆腐屋三婦の家にかくまわれ、その妹累に想われて夫婦となり、故郷羽生村で与右衛門と名を変え百姓として暮らしている。累の顔は姉の祟りで醜くなるが、与右衛門は累に鏡を見ないと約束させたため本人は気づいていない。

与右衛門は主人の許婚歌方姫が博打うちの悪人・金五郎にとらえられ、花街に売られそうになっていることを知り、百両の金とひきかえに姫を引き取ることを約束する。金策に苦慮する夫を見た累は自分の身を売って金にかえようと女郎屋に話を持ちかけるが、そこで初めて自分の顔が醜く変わり果てたことを知る。絶望した累は自分を愛してくれた夫に申し訳が立たないと、自殺するため絹川に向かう。

同時に絹川に向かった与右衛門は金五郎に出会い、姫の正体を隠し自分の元妻であるからと言ってなんとか姫を救おうとする。しかしこれを隠れ聞いた累は与右衛門に騙されたのだと誤解し、姉高尾の怨霊によって二人に襲いかかったため与右衛門に斬り殺されてしまう。

その後与右衛門はもとの美しい顔にもどった累の首を斬り落し、歌方姫の身代わりとして代官所に届ける。

累は猶も歯がみをなし、エヽ思へば思へば憎女。生ケ置て我夫トにおめおめと添そふより、殺して俱にめいどの道連レ、観念しや、と鎌を取ル*1。

8月の蔵の穴で本物を公開中！

〔参考文献〕
*1『近松半二・江戸作者浄瑠璃集』新古典文学大系94　岩波書店　1996年9月
*2『歌舞伎事典』平凡社　1993年4月
*3『歌舞伎登場人物事典』白水社　2006年5月
*4『絵金展　土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館　1996年
*5『絵金蔵収蔵品目録』赤岡町　2005年2月
*6近森敏夫『絵金読本』香南市商工水産課　2006年3月　改訂版